

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079800233		
法人名	有限会社 あきの		
事業所名	グループホーム ひなたの家	ユニット名	1ユニット
所在地	福岡県田川郡福智町弁城2482-1		
自己評価作成日	平成24年10月13日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年12月15日	評価結果確定日	平成25年3月6日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

月1度の買い物と外食、利用者個人の買物の要望、季節の花の散策等の個別外出を行っている。
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲を田園風景に囲まれた、豊かな自然環境の中にある事業所である。リビングからは作物の成長や山々の彩りの変化も眺められ、木の温かみとゆとりある広さを持つ、やさしい生活空間が広がっている。毎月の外出行事として、食事やショッピングに出かけている。また、月1回、皆で献立を考え、野菜の皮むきや、包丁を手に刻む方等、クッキングの日を設け、「食」を楽しんでいる。今年度は家族会が発足し、年2回の開催が実現しており、バイキング形式の昼食をとりながら、コミュニケーションを深めている。開設して8年目を迎える中、ホームでの最期を迎えられた方もおり、あらためて、本人本位の支援やケアのあり方について考える機会を頂いている。今後も個別支援の追求や、地域拠点としての活動展開が大いに期待される。
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念に関して、社会貢献してきた高齢者に対して、常に尊敬をしている。その方々が恵まれた自然環境の空間で、その人らしい生活を営んでいく上で様々なサービス提供を行い、余生を楽しんで頂ける様にと作成したものであり、それを職員一同共有して取り組んでいる。	事業所独自の理念が作成され、事務室等に掲示している。毎朝の申し送りの際には、唱和や確認を行ない、実践に結びつけるよう取り組んでいる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	交流としては、散歩等の挨拶だけに留まっている。	自治会には加入していないが、町役場より広報誌が届き、地区の文化祭や敬老会に参加している。また、近くに公民館があり、夏祭り等への参加を通じて、交流している。近隣に民家は少なく、日常的な交流を課題としている。入居者本位の地域との交流を念頭に置いている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方々からは、ただ単に施設としての理解しか得られておらず、事業所としては、認知症の方の理解や支援方法について、地域の方々には活かしていない。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者やサービスへの取り組み状況等を報告し、話し合いを行っている。会議で挙げた意見や改善点等を考慮して、サービス提供と質の向上に繋げている。	運営推進会議は、家族代表、地域代表として町会議員、町役場から福祉課の職員の参加を得て、開催されている。事業報告とともに、意見やアドバイスを頂き、サービス向上に活かせるよう取り組んでいる。内容については、定期的に家族への報告を行っている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連携は、事務的な面では取り合っているが、事業所の実情やケアサービスへの取り組みについては、具体的には伝えていない。	運営推進会議には、町役場職員の参加を得ており、情報共有やアドバイスを得ている。また、ケースワーカーとの情報共有や連携を図っている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する資料を業務日誌に挟んで、いつでも目に付くようにしており、職員一同身体拘束をしないケアに取り組んでいる。やむを得ない場合については、御家族の同意を得ている。	玄関の施錠は行われていない。夜間のみ離床センサーを使用している事例があり、家族の同意を得ている。身体拘束をしないケアについては、契約時に家族に説明している。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての資料を業務日誌に挟んで、いつでも目に付くようにしており、職員一同虐待の見逃しがないように防止に取り組んでいる。	

福岡県 グループホーム ひなたの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関してのパンフレットをいつでも閲覧できるように玄関先においている。必要があれば関係者と話し合い、活用出来るよう取り組む。	資料を整備し、玄関ホールにて閲覧可能としている。必要時には関係機関との連携を図り、活用に向けた支援が行えるよう取り組む意向である。	権利擁護に関する制度の理念や意義について、職員の理解を深めていくことや、家族や地域に向けた、積極的な情報発信にも期待します。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時は、十分な説明を行い、利用者や家族等の不安や疑問、意向について出来る限り伺い、安心して利用していただけるよう理解・納得に努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所の玄関に御意見箱を設置しているが、利用者や御家族は意見や要望を直接職員に申し出て頂いており、それを考慮し事業所の運営に反映している。	意見箱が設置されている。毎月の支払い時も含め、家族の来訪時には、コミュニケーションを図り、意見や要望の収集に努めている。月1回のクッキングの日も、家族からの要望で実現している。家族会も発足しており、年2回、開催されている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の定例職員会議にて事業所の運営に関する意見、提案を出しており、反映させている。	月例のユニット会議や、3ヶ月に1回、全体会議を開催している。職員の主体的な開催となり、出された意見や要望は、代表職員を通じて運営者に伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況を把握し、賞与、残業手当、皆勤手当に反映し、職員各自が向上心を持って就業できるよう整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたって性別、年齢等を採用対象から外していない。事業所の職員についても、希望休や有給休暇、慶弔休暇等を考慮し権利が保証されるように努めている。	職員の採用にあたっては、人間性ややる気を重視し、年齢や性別による制限は行わないようにしている。現在、20代から70代までの職員が勤務している。休憩室や時間の確保、希望休への配慮が行われている。	研修の機会が少なく、職員の主体的な関わりも含め、体制の整備や積極的な姿勢が期待されます。
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育・啓発活動について、職員等に対して取り組んでいない。	理念として、入居者の方々の、健全に安らかな生活の保障を謳っている。	様々な視点から入居者の方々に対する人権尊重への意識を高めるよう、人権教育や啓発に取り組んで欲しい。

福岡県 グループホーム ひなたの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修を受ける機会の確保はできていない。利用者の状態に応じたトレーニングには努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町のグループホーム協議会での交流は行っており、ネットワークや勉強会、訪問等の活動を通してサービスの質の向上を図っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とのコミュニケーションを図ることで、不安や困っている事、要望や本位等を伺い、解決していく事で、安心してサービスを利用できる為の関係づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の御家族とのコミュニケーションを図ることで、利用者の不安や困っている事、要望や本位等を伺い、解決していく事で、利用者の御家族が納得し、安心してサービスを利用できる為の関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と御家族が直ぐに必要としているサービスを伺い、出来るだけ本位に沿った他のサービスの対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者にとって、その人がその人らしい生活を営んでいく為はその人の事業所での役割があり、職員は生活を共にする関係を構築している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族とのコミュニケーションを図り、本人の思いと家族の気持ち(意向やここに至った経緯)を大事にし、共に支援していく関係を構築している。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の昔からの友人、知人の面会、本人にとって懐かしい場所への訪問等、出来る範囲での支援に取り組んでいる。	携帯電話を2名の方が所持しており、家族との連絡を取り合っている。病院受診の帰りには、馴染みの場所に立ち寄る事もある。	

福岡県 グループホーム ひなたの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の共通の話題や趣味を把握し、孤立しないよう声を掛け、関わり合えるような支援に取り組んでいる。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後は、関係性を大事にし、本人・家族の経過を伺い、必要に応じて相談や支援に取り組んでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の気持ちや生活パターンについて、出来るだけ要望や意向に沿うようにしている。困難な場合、本人本位に考慮している。	センター方式を活用し情報収集を行っている。意思の表出が困難な場合には、本人本位に検討を行い、思いや意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活パターンや過ごし方、日常茶飯事や日課、これまで利用していたサービスについて把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活パターン、本人の気持ちや体調、既往歴、出来る力等の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良い暮らしの為の課題とケアについて、本人、家族、ケアマネや職員と話し合い、出来るだけ本人と家族の意向に沿って、本人の負担にならないような現状に即した介護計画を作成している。	センター方式を活用した情報収集を行っている。本人、家族の意向を踏まえ、アセスメントから課題やニーズを抽出し、介護計画を作成している。毎月のモニタリングやカンファレンスを通じて、現状の確認や見直しの必要性について確認している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人一人のケアについて、個別の記録、ケアプランチェック、業務日誌、その他の記録に記入し、情報等を職員間で共有し、実践や介護計画の見直しに取り組んでいる。		

福岡県 グループホーム ひなたの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時の必要性に応じ、出来るだけ意向に沿ったサービス(かかりつけの医療機関、他科受診、訪問診療、訪問歯科、訪問マッサージ、訪問カット、送迎、個別外出等)の支援に取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年冬場になると利用者と協力して洪柿を下処理して吊るし、干柿作りを行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1. 2ユニットとも基本的には2週間に1回の訪問診療を採用しているが、本人や家族の要望で以前からのかかりつけ医療機関への受診も支援している。訪問診療もかかりつけ医療機関も事業所との連携は取れており、安心した適切な医療を受けられるように努めている。	入居契約時に、かかりつけ医について確認を行っている。本人、家族の希望するかかりつけ医への受診や、協力医による訪問診療体制を築き、適切な医療を受けられるよう支援している。訪問歯科についても、希望や必要に応じて、週1回の診療が可能である。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、日常生活での状態変化についての情報を、訪問看護師に報告・相談し、指示を仰ぎ、個々の利用者が安心した適切な受診や看護を受けられるよう支援に努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時に、安心して治療に専念できるよう、又、早期に退院できるよう、病院関係者との情報交換に努めている。病院関係者との関係づくりについては、取り組んでいない。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については、その場になってから本人や家族等と話し合いを持ち、事業所に対応出来ることを説明して方針を決めている。	重度化した場合や終末期のあり方については、入居時に指針をもとに説明を行い、本人、家族の意向確認や、事業所としての対応力を説明している。今年度は看取りを経験したことで、本人本位の支援やケアのあり方について、あらためて考える機会となっている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時、事故発生時には、訪問看護師に報告し、指示を仰いでいる。応急処置や初期対応の訓練は行っていない。		

福岡県 グループホーム ひなたの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。内1回は消防署を通しての訓練である。夜間想定訓練は実施したことがない。地域との連携体制については築いていない。	消防署の立会いの訓練も含め、年2回の避難訓練を実施している。夜間の訓練については、今後の課題としている。	夜勤帯の少人数での対応を想定し、訓練を実施していくことや、運営推進会議等を通じて、地域との連携体制の構築に向けた働きかけが期待されます。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を尊重し、言葉遣いには注意を払い、分かる言葉で簡潔に説明を行うように心掛けている。	センター方式を活用し、一人ひとりの理解に努めている。入浴時や排泄ケアの際の対応については特に留意し、プライドや羞恥心への配慮に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活において、本人の気持ちや要望を表せるようコミュニケーションを図り、本人の意向に沿って自由な暮らし方ができるよう声掛けし決めて頂いている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事と入浴日は都合により職員側で決めている。それ以外は、一人一人のペースに合わせ、出来るだけ希望に沿った暮らしができるよう支援をしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃より、容姿に気を付け、髭剃りや両手足の爪切り、定期的な訪問カットでの理髪の支援に取り組んでいる。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回のクッキングにより、材料の下拵えと食事をして頂いている。	調理担当職員が配置され、業者により配達された食材を用い調理している。月1回のクッキングの日には、入居者の希望を聞いて献立を決め、包丁を手に野菜を刻んでもらう等、下ごしらえをともに行いながら、焼うどんやお好み焼きを作っている。誕生日には本人の好きなお刺身などを添えて、お祝いをしている。時には外食に出かけ、普段とは違う雰囲気を楽しむ機会もある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の体調や状態、習慣を考慮し、食事量や栄養のバランス、水分摂取量をチェック表で把握しながら、支援している。		

福岡県 グループホーム ひなたの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的には、夕食後のみ口腔ケアをして頂いているが、利用者の中には毎食後されている方もいる。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターン、体調や状態に応じ、定期的な排泄の声掛けをし、自立支援に取り組んでいる。	排泄パターン表を用い、個別の状況やリズムの把握に努め、声掛けやトイレ誘導を行っている。また、適度な運動や水分補給、食材への配慮を行い、便秘予防に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認表で確認し、水分補給や繊維質を含む物の摂取を促し、運動の声掛けと働きかけ、一人一人に応じた予防に取り組んでいる。それでも排便が無い場合は、下剤に頼っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	事業所の都合により、入浴時間は決めている。	一日おきの入浴スケジュールは設定しているが、日曜日以外は入浴準備を行っており、希望や状況への柔軟な対応に努めている。基本的には午後からの入浴となり、同性介助を基本としている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活パターンや状態に応じ、自由に休んで頂いたり、安心出来るように声掛けし休めるよう支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の既往や現病について、服薬している薬の目的、用法を把握しており、支援と症状の変化を確認している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活パターンや力に応じ、役割を担って頂き、洗濯物畳み、お茶やいりこの袋詰め、ゲームや塗り絵等の気分を変える支援に取り組んでいる。		

福岡県 グループホーム ひなたの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の状態に応じて、月一回の外出と個別の外出を行っている。本人にとって懐かしい場所や行ったことの無い場所に向いたり支援に取り組んでいる。	外出行事として近くのショッピングモールやファミリーレストランへ出かけ、買い物や食事をしている。希望や天候にあわせて、近隣の散策や季節の花見に出かけている。個別の外出については、日常の会話やアセスメント情報から検討を行い、支援に取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	従業員は、本人がお金を持ちたい気持ちを理解しており、希望や力に応じ、所持して頂いたり外出時には使用して頂いたり支援に取り組んでいる。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一人一人の状態に応じ、自由に電話をして頂いたり、手紙のやりとりの出来る支援に取り組んでいる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は、広く入りやすい空間で貼り絵やソファを設置している。廊下は手摺りを設置し歩き易くし、床はフラットでバリアフリーにしている。居間と台所と食堂は共用の空間で、食事の香りやテレビ視聴、季節感のあるカレンダー等くつろぎやすいようにしている。浴室、トイレは車椅子でも入れるように広く、手摺りを設置し負担の軽減を図っている。	玄関にもソファが置かれ、一息つける場所となっている。木の質感が多用された室内は、温もりを感じる空間となっている。リビングには、段差のない畳スペースも設けられており、ソファとテレビが配置されている。リビングの窓からは周囲の田園風景を眺めることが出来る。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビや新聞、ソファがあり、各自思い思いに過ごせるような空間にしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人と家族の希望を考慮して、なじみのものや仏壇、飾り物、写真立て、花瓶等、過ごしやすいようにしている。	筆筒や机等が持ち込まれ、家族により飾り付けが施されていたり、自身で切り抜き作品の飾り付けをした方等、どの部屋も個性があり、生活感がある。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、各部屋には表札や暖簾、トイレには張り紙で位置確認でき、使用中か否か分かるように図っている。		